

第3回宝塚市議会意見交換会記録 第2部

※ この記録は、市民発言者と議員の意見交換の様子について、書記として参加した議員が記録したものを元に作成しています。

テーマ「子育てしやすい宝塚にするために」

市民 子育て中でも何か仕事がしたい。多様な働き方の一つとして、女性の起業をサポートしてほしい。具体的には、市からの情報提供の充実と協賛などによる協力、セミナーやイベント会場の貸し出しを安価で豊富に、土日の休日保育の環境整備を民間も巻き込んでやってほしい。

自分らしい働き方ができるようなネットワークを構築してほしい。女性の潜在能力の掘り起こしを。眠っている有資格者がたくさんいる。人材バンク等で人材のマッチングを。

議員 起業という部分では、宝塚には100以上のNPO団体などもあり、活発。

議員 非正規雇用でしかいられない悩みがある。

議員 休日保育に関しては、官民連携が必要。

市民 市でもよい施策をたくさんやっているが、十分に活用できていない。制度を知らないことも多く、市民の下にまで届かせる工夫がほしい。

議員 市からの発信も、さらにしっかりと進めなければならない。

市民 教育という視点で、親が安心して預けることができ、子どもが自信を持って行きたいと思える学校が必要であると考えます。

公立学校でも現代の多様な子どもたちを安心して預けられるよう基本目標などを定め、さまざまな取り組みを行っているが、年度をまたいだ事業の継続性や幼・小・中と進む中で支援を必要とする子どもの課題を引き継ぐシステムに欠けている気がする。

各学校で取り組んでいる「寺子屋事業」に、地元から参加しているが、やっていることは評価するが、実施することで事業目的のすべてが達成されているかのように錯覚しているのでは。

「やっている」という事実をつくることに一生懸命で、事業を行うことで目的が達成するわけではなく、一つの手段に過ぎないことを認識すべき。

スーパーグローバルハイスクールにしても、宝塚には1校もない。

ひとつひとつの取り組みはすばらしいので、継続すること、また、つなぐことを進めてほしい。

議員 教育において、イベント的に「これやりました」でおしまいになっているかもしれない。事業が単発で定着してこない。「寺子屋事業」についても、頻度や継続性が重要。

議員 宝塚の場合、私立に特徴がある。公立は地域によって子どもの人数バランスが崩れており、学校間格差も生じているので、そこをどうしていくかが最大の課題である。校区の問題や、吹奏楽など部活動の問題など、公立の抱えている課題は私立と違う。「教育委員と語ろう」開催など、教育委員会が主体で動くことに期待している。全体として宝塚の教育レベルを上げている。

寺子屋事業だけでなく、子ども支援・教育支援を全体で行っていくことが求められる。

市民 宝塚市民になって、ひとつひとつ魅力があってもつながらないものが多いと感じた。寺子屋事業にしても、本来は地元住民との交流が目的だったはずが、実態は教員の多忙化の手助けになっている。地域でどのように子どもの心を育ていくのかというそもそものコンセプトに立ち返り、どんなカリキュラムでどのようにマネジメントしていけばいいのか検討し、進めていってほしい。

市民 子どもが仁川幼稚園在園中は、ひとりひとりに密着した、丁寧な保育をさせていただいた。ところが、園児募集では2クラス分の定員で1クラス分しか応募がなく、サービスが多い私立を選びがちである。私としては、公立幼稚園のよい教育に喜んでおり、公立幼稚園の存続を願っている。

異年齢交流が多いところを探している人も多いことから、公立幼稚園での3年保育を要望する。公立幼稚園で実現してほしい。

議員 仁川幼稚園をはじめとする公立幼稚園の3年保育は、平成12年の幼稚園教育審議会において「実験的に3年保育を実施する」という答申があり、平成16年から実施予定だったが諸事情により実施しなかった。平成26年の幼稚園教育審議会においても「3年保育について改めて取り組んでいくべき」との答申があっ

た。公立幼稚園のあり方研究・実践プロジェクトにおいても3年保育は実験的に実施すべきとあり、平成29年度からの実現に向け前向きな議論は進んでいるが、財政的な面など、まだ実現までいかない現状である。

議員 長尾幼稚園のPTAからも要望があり、平成29年度からの3年保育の実施について、どこを優先するのか議論が必要となる。

保育料の関係や家庭の問題などもある。減免制度の拡充なども貴重な意見であり、現在、子育ての負担が大きくなっており、格差と貧困が広がらないように今後議論していかなければならない。

市民 休日保育の定員枠をもっとふやしてほしい。

議員 幼稚園問題はかつては統廃合であった。そのようなことのないよう、どうか公立幼稚園を選んでほしい。

議員 新たなニーズに応じて考えていかなければならない。

市民 保育士の資格をもつ人が私の周りにいる。せっかく資格をもっているのに、現在保育士をしておらず、宝のもちぐされとなっている。そういった人材を活かせる場所があればいいと思うのだが。

議員 「潜在保育士」への働きかけとして、セミナーを実施しているが参加者が少ない。広報不足かもしれない。

市民 3人の子どもを育てるシングルマザーである。小学3年生の子はアスペルガー症候群、3歳の子は自閉症である。小学3年生の子は2学期から不登校となっており、一人で家においておけないため、放課後デイサービスを利用している。

子どもを放課後デイサービスにお願いし、午後から仕事に行く生活になっているが、放課後デイサービスだけでは生活実態に合っていないと感じている。

午前中に仕事等がある場合は、子どもの居場所はないため、一人で留守番をさせている状態であり、「適応教室P a 1 たからづか」の受け入れを小学校低学年からにしてほしいと思う。

議員 子どもの育ちは大切にしなければならない。そのためにも家庭への支援は大切だと思う。子どもを健全に育てるためには、家庭を支援する必要がある。家庭が

安全でなければ、子どもは育たないと思う。また、子どもを支えることは家庭を支えることにもなると思う。

市民 地域児童育成会に入ろうとしても、年度途中からでは受け入れてもらえない。もっと合理的配慮をしていただきたいと思う。

発達障がいの子どもの成長したときの就職先も心配であるが、相談窓口がバラバラであるため、総合的に相談を受けてくれるところがあればと思う。

議員 親のできない部分を支えるのがスクールソーシャルワーカーである。また、ファミリーサポートセンターを活用するなどの方法もある。

市民 発達障がい、不登校、シングルマザーという3つの困難を抱えているので、教育と福祉で家庭を支援することの必要性を訴えたい。

市民 スクールカウンセラーをしており、子どもたちにとって最善の状況がつけられるようサポートしている。

学校だけでなく、子どもたちの生活環境に丸ごと関わっているのが大変多忙であり、スクールカウンセラーを学校配置にしてもらうなどの拡充をお願いしたい。

スクールカウンセラーは、非正規雇用で1年単位であるため、同じ人が継続して雇用されるという保証もなく、子どもたちにとって安定性に欠ける状態だ。

地域児童育成会の指導員の待遇も改善が必要であり、スクールソーシャルワーカーなども含め、雇用形態を常勤とするなど、教育福祉環境を整えることは未来を担う子どもたちへの投資として必要なことである。このような状態を改善していただきたい。

議員 おっしゃるように大変重要な部分だと感じており、子どもたちのためにスクールカウンセラーなどの配置の拡充を求めたいと思う。

そういう仕事に携わっている人の雇用環境についても、安心して暮らしていけるような整備が必要だと思う。

市民 子育ては家庭こそ大切であると考えている。給食費が払えない家庭があれば、福祉的な補助をしていただきたい。親と学校などの連携が必要であると思う。

議員 子どもの貧困問題は課題である。子どもたちの課題を解決していくためには、スクールソーシャルワーカーは、まだ十分に機能していないかもしれない。